

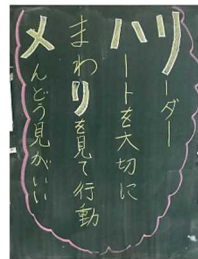
大分教育事務所訪問 17

臼杵市立下ノ江小学校から学ぶ

学校の教育目標を「ふるさとを愛し、ともに学び合い、高め合う下ノ江っ子」の育成と定め、目指す子ども像を「思いや考えをもつことができる子」「思いや考えを表現できる子」「進んで行動し何にでも挑戦する子」と資質・能力の3本柱とリンクさせ、愛と笑顔にあふれる学校を目指しています。(今回の価値語は「愛」を意識してつくりました(笑))

学校経営から学ぶ

小規模校の良さを活かし、全職員で2ヶ月に1回は取組状況と子どもの成長についての検証を継続的に行っています。また、児童の課題に対しては「ながらエクササイズ」を導入するなど、それぞれの教職員の個性を活かし、認めて任せています。上位目標は校長が決めても、その取組は担当に任せることは人材育成においても有効ですね。



今後は、取組指標の中に短期で検証ができそうなものは期間を決めて(2週間~1ヶ月)集中して行うことで、教職員も子どももより成長を感じたり課題を明確したりすることができるでしょう。そのことで、取組指標が頻度だけでなく、内容の質が次第に高い目標となり、子ども達自身がより成長(資質・能力の育成)を感じることでしょう。

さらに、そのような実践をとおして、「育成を目指す資質・能力」(教科横断的な)についても絞ることで、教職員だけでなく、地域や保護者もその目標を意識することとなり協働的な取組が進むことでしょう。

授業から学ぶ

どの授業も「学び合いタイム」では、話し方や聞き方を意識していました。また、教室の約束や目標も子どもが作成しているものが多くあり、特に5年生の教室では、それぞれの活動に対して、その価値や今後の課題をみんんで確認していました。このように子ども



に当事者意識をもたせることで、自ら「資質・能力」を育成しようとするようになり、子どもと共に創るような授業がより推進されるでしょう。

今後は、よりテンポのある授業や子どもに時間を意識させることを取り入れることで、圧倒的な量の問題を解ける、圧倒的な量を書ける、1時間に何度も活躍の場がある、異学年で学び合える等、小規模校の強みを活かしながら、それぞれの資質・能力がより定着することが期待されます。



NO.95 2021年6月 臼杵市立下ノ江小学校

愛(相)手意識

自分(I)と友だち(あい)の考えをたいせつにしよう。

愛と笑顔にあふれる下ノ江小



NO.96 2021年6月 臼杵市立下ノ江小学校

相手のノートで

自分(I)と友だち(あい)の気持ちをたいせつにしよう。

愛と笑顔にあふれる下ノ江小



NO.97 2021年6月 臼杵市立下ノ江小学校

頑張りの発見

自分(I)と友だち(あい)のがんばりをたいせつにしよう。

愛と笑顔にあふれる下ノ江小